

長野県に新たに加わる植物 IV

横 内 斎

I. Yokouchi: Some new plants to Nagano Prefecture IV

カマナシニワトコ *Sambucus sieboldiana* BL. form. *kamanashiensis* YOKOUCHI

諏訪郡富士見町富士見。50年8月。母品にくらべると小枝が密に指す。小葉やや小形でやや細長い。光沢あり、果実は小形で鮮紅色。思うにフォッサ・マグナ地域の釜無谷の石灰岩地帯という特殊な地帯に生じ変化したものであろう。横内 斎 採集

マルバアカネ *Rubia akane* NAKAI form. *rotundifolia* YOKOUCHI 50年5月。

諏訪郡富士見町落合。母品にくらべると葉が丸い。母品は長径(葉身) 1.4に対し横巾1の割合であるが、本品はその割合は1.2に対し1である。葉先も母品よりも更に鈍円である。静岡地方では本品と母品との割合は半々ぐらいという(杉本氏来信)。横内 斎 採集
ムラサキオギ *Miscanthus sachariflorus* BENTH. form. *purpuratus* YOKOUCHI

51年9月28日。東筑摩郡四賀村会田小字知見寺。オギの紫花品。ススキより大形であり、穂も大きいからなかなか見栄えがする。三ヶ所程あり。後同村錦部刈谷原にも見出す。横内 斎 採集

シダレヒノキ *Chamaecyparis obtusa* SIEB. et Zucc. var. *penduliformis* UYEKI

51年4月17日。諏訪郡富士見町落合。三光寺境内。大木六本あり。横内 斎
キクガラクサ *Ellisiophyllum pinnatum* MAKINO var. *reptans* YAMAZAKI

51年6月15日。

木曽郡楢川村奈良井。横内 斎 採集 分布 武蔵 東京 尾張 三河茶臼山 山城 紀伊 播磨 備前 備後 讃岐 阿波 伊予 肥前 そのうち三河茶臼山

は下伊那郡根羽村の境で産地は三河側。伊那谷と木曾谷をへだて、更にその北の奈良井谷に属する隔離分布のいちじるしい例。

日本特産。母種は台湾、雲南省、フィリピン、ネパール、シッキムに産す。

バビリオ *Viola papilionacea* PURSH

松本市県旧信大文理学部 51年6月27日 横内 斎 横内文人採集。帰化、北アメリカ原産。他に松本市各地にある。

シロバナゼニアオイ *Malva sylvestris* L. var. *mauritiana* (L.) BOLLIS cv. *albiflora* 51年6月12日。松本市高宮。野化。欧州原産。

ミサワアザミ *Cirsium × misawaense* NAKAI

51年9月15日。諏訪郡富士見町富士見。横内 斎、飯沼冬彦、横内文人採集 タイアザミとフジアザミの雑種。産地 相模丹沢山畑野 古瀬義氏、遠江天竜川流域鳥居喜一氏。上伊那郡長谷村小瀬戸柄山祐希氏。日本で四番目、県内で二番目の記録。

ユキムラザサ *Sasa iwakiensis* KOIDZUMI

51年8月。諏訪郡富士見町落合。横内 斎 採集。クモイワトラノオ *Asplenium × akaishiense* K. OTSUKA

クモノスミダとイワトラノオの雑種。大塚孝一氏採集 上伊那郡長谷村小瀬戸峽。51年8月1日(大塚孝一氏来信)

種々お教えをいただいた杉本順一氏(静岡)、室井緯氏(神戸)、浜栄助氏(茅野市)、大塚孝一氏(金沢)に厚く御礼申し上げます。

(注) 新植物はまだ正式に発表されていない(T.S.)

木曾郡南木曾町柿其で発見した長野県新産植物 2 種

橋渡勝也・高橋秀男

K. Hashido & H. Takahashi: Two new additions to the flora of Nagano Prefecture

1. サクライソウ

Protolirion sakuraii (Makino) Dandy

筆者の一人橋渡が、1976年10月20日に木曽郡南木曾町柿其(標高690m)で採集した。サクライソウは、

明るい山林内に生ずる腐生植物で、高さ10—20cm、全体は黄白色を呈し、7—8月に淡黄色の花径4mm余りの小花を総状につける多年草である。

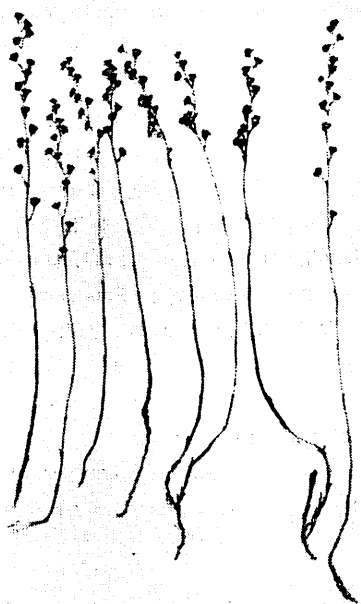
既に報告されている産地は、基山地である岐阜県可

児郡可児町久々利 (Jul. 27, 1903, 桜井半二郎) を始め、愛知県旭町八幡神社、長井坂 (大原準之助)、京都市左京区久多町 (1954, 赤坂時之・田村道夫)、福井県永平寺 (1954, 若杉孝生)、奄美大島 (1934, 正宗敬敏) などが知られ、最近では石川県江沼郡山中町富士塚ヶ岳 (1975, 九富修) から報告され、ここが北限産地となった。このうち岐阜県可児町浅間山 (標高 392m) の自生地は、天然記念物に指定し保護している。

今回筆者らの発見地は石川県より緯度的には南に当るが、岐阜県可児町からは直線距離にして約150km東北方の位置にあり、サクライソウの分布域がさらに拡大されたことになる。

生育地は、通称キノヒノキと呼ばれる推定年代 250

年のヒノキを主とした天然林 (三殿営林署資料) に続く雑木林の林床であった。この雑木林は、過去に天然林が伐採されその後放置されたままらしく、低木層はリュウブ、ネズ、ネジキなどの密生したブッシュが繁り下草は

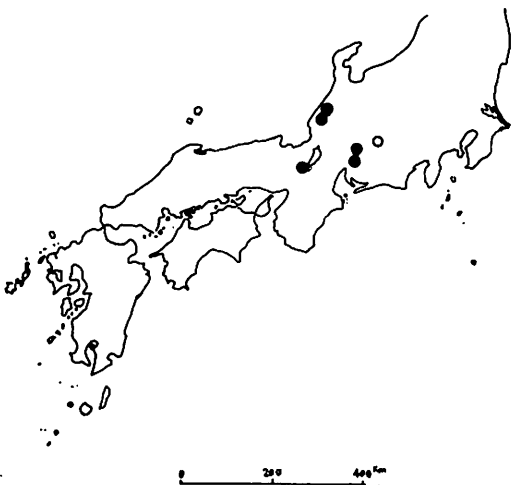


サクライソウ (*Protolirion sakuraii*)
木曾郡南木曾町柿其 (かきざれ) にて
1976 年 10 月 20 日 橋渡勝也採集。

殆んどなく、高木層には樹高約15mのモミが点々としていた。サクライソウは、この林の尾根付近の割合に乾燥した場所に点在し、尾根をはずれると全く見ることができなかった。

〔植物ニュース〕(17) シロバナタンポポ *Taraxacum albidum* Dahlst. 帰化植物とは、外国産の植物が何らかの人為的な作用を通して侵入野生化したものと定義される。しかし、植物自身に国籍があるわけではないから、帰化植物の本当の意味は、人間の活動によって本来の分布図を逸脱野生化した植物ということにある。そうすると、こんな植物は国内にもあるのではなかろうか。帰化という人間本位の言葉の意味からは矛盾はあるものの、私はこんな植物を国内帰化植物とよ

南木曾町柿其と岐阜県浅間山の自生地とは、植生がよく類似しているようで、今後さらに植物社会学的な調査も行ない、比較検討を試みるとともに何らかの保護対策を考えたい。また、岐阜県浅間山では、サクライソウに伴って、ホンゴウソウも発見されており、両種は生態的にも類似の環境に生えるので今後南木曾町柿其でも発見が期待できそうである。



サクライソウ (*Protolirion sakuraii*) の分布
○は南木曾町柿其の新産地

2. バケヌカボ

Agrostis × *dimorpholemma* Ohwi

コスカグサ × *Agrostis* sp. の雑種起源と考えられる種で、箱根産にもつぎ大井次郎氏が記載した。

本種は外穎が有芒で包穎より超出する小花と無芒の小花が同一花序に混存する特異な種であるが、概形はコスカグサに似ている。邦産 *Agrostis* で有芒小花をつけるものには裏日本の深山に生ずるユキクラヌカボ、高山生のミヤマヌカボ・コミヤマヌカボ、帰化植物のヒメヌカボ (芒は苞穎の外へは超出しない) があり、いずれの種も分布的にかけ離れており、バケヌカボの片親を追求することは困難である。

同定していただいた国立科学博物館、館岡亜緒氏に厚くお礼申し上げる。

び、これも人間活動の指標になるだろうと述べたことがある (日本生態学会中部地区甲信越 亜区大会, 1973)。

ところで、シロバナタンポポの固有の分布域は県内では飯田以南や木曾地方南部とみられる。しかし、諏訪や松本や長野でも時どきみることができる。白花という珍らしさから移植され、野生化したものと思われるが、これは国内帰化植物のよい例ではないかと思っている。 (清水建美)